

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果			
						4	3	2	1
一 確かな学力の定着・向上	①確かな学力の定着向上に努める。	基礎・基本の確実な定着を図り、児童に確かな学力を身に付けさせようと努力している。 ※学級担任全員が肯定、児童・保護者の90%以上が肯定 ※各教科の単元テストでの平均正答率80%以上(A判定)が80%以上	A	◇ 各学担当が工夫をして授業を行っており、教職員・児童・保護者の肯定率も100%である。各教科の単元テストでの平均正答率80%以上を達成できたのは80%となっており、こちらも達成できた。極小規模校のよさを生かし、一人一人に丁寧な指導を行った成果であると考え。教科によっては、正答率が80%未満のものもあることが課題である。	教職員アンケート3-①②	57%	43%	0%	0%
				◆ これからも各学級で児童の実態に応じた指導の工夫を継続し、児童の学力向上に努めたい。少人数のよさを生かして、きめ細かな指導をし、単元テストの正答率の底上げを図る。また、校内漢字検定や算数検定等を生かし、児童に自分の学力について正しく認識させることで、学習意欲を高めたい。	児童アンケート⑤⑥⑦	67%	33%	0%	0%
	児童の学習意欲を高め、文章を読み取る力や自分の考えを豊かに表現する力。 ※各単元の中で、考えを表現する活動と対話する活動を1回以上実施	B	◇ 各学担当が単元構想を工夫し、表現や発表する場を設定することができている。また、全校話し合いやファミリー班活動、句会等を通して、自分の考えを表現したり、友達の話を受けて、自分の考えを再構築したりすることができていた。	教職員アンケート3-⑦	50%	50%	0%	0%	
			◆ これからも、各教科で教材研究を行い、多様な表現と発表の場の工夫をしていく。さらに、発達段階に応じた表現方法や語彙力を身に付けられるように、相手や目的意識を持たせて学習に取り組ませる。学年で一人しかいない学級は、他校とのオンライン交流等も取り入れながら、同学年で対話する場を設定し、学力を高めたい。						
②基本的な学習習慣を確立する。	宿題を含む家庭学習を、低学年30分、中学年40分、高学年60分程度の習慣が身に付いている。 ※教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	B	◇ ICT機器を活用することで、多くの児童が学習への意欲を高められていると考える。教職員においては、積極的にICT機器を活用する中で操作等の課題を見付け、その改善に努めているため、低い評価もあると考える。	教職員アンケート3-③	38%	50%	12%	0%	
			◆ ICT機器のより良い活用を考え、児童の学力や学習意欲の向上を図っていくことが大切であると考え。そのためにも、教職員間で効果的な実践等の情報共有を行い、学校全体でのレベルアップを図って行きたい。	児童アンケート⑧	92%	8%	0%	0%	
学校運営協議会所見	・校内漢字・算数検定の取組は継続してほしい。基礎的・基本的な学習内容が身に付くか付かないかでは大きく違ってくると思う。 ・極小規模校のよさを生かし、個に応じた指導や基礎的・基本的な学力の定着・向上の徹底を継続してほしい。 ・他校との交流は、さらなる学びになり、重要だと感じた。	学校の対応	◇ 家庭学習をする習慣は概ね身に付いていると考える。宿題は各学担当が児童の実態に応じて工夫して課題を出している。ただ、提出はしているが、直しができていなかったり、内容や質に課題があったりする。ただやるだけではなく、自分の学力向上を目指して工夫して家庭学習に取り組めるように、意識を高めたり、やり方を指導したりする必要がある。また、忘れ物をする児童への手立ても必要である。	教職員アンケート3-⑤	50%	50%	0%	0%	
			◆ 家庭学習の習慣は身に付いているので、より効果的に取り組める工夫をする。自主学習の手引きを作成したり児童が取り組んだノートを紹介したりして、自主学習への意欲と質の向上を図りたい。	児童アンケート⑦⑭⑯	51%	44%	5%	0%	
				・今後は漢字・算数検定を交互に、月1回のペースで行う予定である。学習の基礎・基本の徹底を継続して行うようにする。 ・極小規模校のよさを生かし、児童一人一人に、よりきめ細やかな指導をしていく。基礎的・基本的な学習内容の定着・向上を目指し、誰もが「分かった」「できた」と言える授業改善を進めていく。 ・何のために宿題をするのか、どのように家庭学習をしていくのかを児童一人ひとりに理解させる。	保護者アンケート③④	30%	45%	15%	10%
二 豊かな心の育成	③生徒指導の徹底と健全育成に努める。	教育相談体制を確立して児童理解に努め、温かい人間関係づくりに努めている。 ※教職員・児童・保護者・地域住民の90%以上が肯定	B	◇ 数名の保護者・児童が、教職員に相談しやすいか、という問いに対して肯定的でない回答をしている。また、学校ははじめや不登校がおきないように努力しているのか、という問いに対しても、数名の保護者が肯定的でない意見となった。教職員と保護者・児童の信頼関係をより一層築くことができるように努力し、教育相談の充実を図る必要があると考える。児童は楽しく学校生活を送っており、教職員から大切にされていることを実感しているようである。児童の笑顔を増やす努力を行いながら、児童・保護者の悩みに寄り添うことができるように工夫する必要があると考える。	教職員アンケート8-③	25%	50%	25%	0%
				◆ 児童と行う普段の会話や、学校行事の振り返りや日記などを通して、児童の学校生活の様子を把握できるようにしていきたい。また、教職員同士で児童の善行を共有し、児童の自信へつなげていきたい。学級通信や懇談会などで、児童の成長した点や長所を伝えていくことで、保護者の方々との信頼関係も築いていきたい。	児童アンケート ①⑩⑫⑬	76%	19%	5%	0%
	④地域を活用した体験活動を充実する。	地域を学んだり、地域人材の指導を受けたりするなど、地域を活用した体験活動を計画的に実施する。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ どの項目でも肯定的な回答となった。地域コーディネーターの方や講師の方々に来ていただき、児童と接する機会を昨年度よりも多くつくることのできたからではないかと考える。また今年度はトリアスロン大会やぎおん祭り子ども相撲大会などもあったため、地域の行事を体験することができ、地域について学ぶことができたのではないかと考える。	保護者アンケート⑧⑨⑪⑬⑮	58%	34%	8%	0%
				◆ 2学期以降も外部の方々にも協力していただきながら、児童がより深く考えられるようにしていきたい。外部の方々に来ていただくだけでなく、授業内容を地域と関連付けながら教えることで、児童は地域に対して、より一層興味・関心を持つことができるのではないかと考える。	地域アンケート⑥	100%	0%	0%	0%
⑤『つながり』『挑戦』『成長』し、笑顔あふれる学校風土を醸成する。	全校児童が共通の目標に向かい、心を合わせて頑張る活動を実施する。 ※校内漢字・算数検定合格を目指し、基礎的・基本的学習内容の定着を図るための自主学習や宿題の提出を行う。 ※児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	A	◇ 校内漢字・算数検定合格に向けて、児童に自主学習をするよう促したり、検定に関する小テストを行ったりするなど、各学級で指導の工夫をすることができた。児童の家庭学習の習慣化については、教職員で連携しながら対応することができたのではないかと考える。「つながる、チャレンジする、成長する」のキーワードを教室に提示している学級もあり、児童は意識しながら学校生活を送っていた。	地域アンケート④⑤⑧	73%	27%	0%	0%	
			◆ 授業の初めに前時の復習、授業の終わりに振り返りを行うなど、引き続き児童の基礎学力定着に向けて努力していきたい。全校児童が1つのことに向かって頑張る機会を提供することで、学年を超えたつながりやをより一層大切にしていきたいと考える。	教職員アンケート3-②⑤	59%	41%	0%	0%	
学校運営協議会所見	児童・教職員が互いのことを尊重し、認め合う関係づくりをする。また、感謝の言葉を発し合ったり、「ありがとうの木」活動の充実を図ったりして、自己肯定感を高める。 ※児童・教職員の100%が肯定	A	◇ 上学年の児童が下学年の児童に対して優しくしている姿を多く見ることができた。また、児童同士でお礼を言うこともできていた。しかし、やってもらって当たり前と思っている児童の姿を見掛けることがある。	児童アンケート⑥	84%	16%	0%	0%	
			◆ 自分のために多くの人々が動いていることを、児童に気付かせたい。「ありがとうの木」の更なる充実を図るとともに、授業内でも児童同士で良いところを発表する機会を今まで以上に増やしていきたい。	保護者アンケート⑯	60%	40%	0%	0%	
				教職員アンケート1-③④	32%	68%	0%	0%	
				児童アンケート④	67%	33%	0%	0%	
			学校の対応	・6月の「なかよしアンケート」の結果や考察を委員の皆様には見ていただいている。参考資料や指標の一つとして活用してほしい。11月に行う第2回目の「なかよしアンケート」の結果や考察についても、委員の皆様に見ていただくことになるので、参考にさせていただき、年度末評価に役立ててほしい。 ・保護者や児童との信頼関係が希薄にならないように、連絡・調整を強めていく。 ・家庭・地域・学校が連携・協働できるように、より開かれた学校づくりに努め、地域社会総がかりの教育を進めていく。					

三 健やかな心身の育成	⑥体力・運動能力を高める教育活動を充実する。	体力テストの結果を活用し、体育の授業において、不足している体力・運動能力を向上させるための運動を取り入れる。 ※体育の授業全体の70%以上、朝運動を週2回実施	A	◇ 体力テストの結果を活用し、体力を高めたり体幹を鍛えたりする運動を、授業導入時の補助運動として行った。また、行事等に関連させた内容を取り入れることで、児童の運動への意欲を高めることができていると考える。陸上運動や相撲では、一生懸命練習に取り組み、校外の大会や練習に参加してみたいという児童の前向きな意見も聞かれた。 ◆ 授業の工夫とともに、朝の運動とも関連させ、児童の体力・運動能力のさらなる向上を図っていくことが大切であると考え。これからは、朝の運動で陸上競技の動き作り等を適切に行い、陸上練習やマラソンにつなげる取り組みをしたい。	不足している体力・運動能力を向上させるための運動の実施率	低 70%															
	⑦基本的な生活習慣の確立、保健指導・安全指導を充実する。	家庭と連携・協力して基本的な生活習慣の確立・定着を図ったり、全職員で個に応じた保健指導・安全指導を徹底したりして、全校児童出席日を増やす。 ※年間全校児童出席日が150日以上 ※教職員・児童・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ 目標値を上回る90%以上が肯定的である。全体的には、基本的な生活習慣の確立、保健指導・安全指導は概ねできていると思われる。しかし数パーセントであるが、保護者と地域に評価の低い項目があった。一部の児童や時期、登下校中の安全指導が徹底できておらず低い評価になったと思われる。 ◆ 全校集会、地区児童会、掲示板等を活用して、児童が積極的に取り組んでいけるように指導していきたい。ホームページや学校だより、学級だより、保健だより等を通じて学校の取組を周知し、保護者と連携しながら指導を継続していく。必要な児童には、全教職員で共通理解を図りながら個別指導も行っていきたい。	教職員アンケート1-②7-①②③④ 児童アンケート③⑬ 保護者アンケート⑥⑦⑫ 地域アンケート①②⑦	33%	67%	0%	0%	67%	33%	0%	0%	45%	48%	7%	0%	52%	44%	2%	2%
	学校運営協議会所見	・家庭との連携・協力体制はどのように整えているのかを含め、保護者に寄り添う指導体制が必要なのではないか。 ・地域からの情報をたくさん得て、教育活動に生かしていくことも大切ではないか。 ・明るく前向きな児童たちである。これからは、心と体の成長を期待している。	学校の対応	・生徒指導面では、年度始めや各学期末ごとに「生活のきまり」を配布している。保健・安全指導面では、月に1～2回程度で保健だよりや学校だよりを配布して、留意事項や注意事項を示している。 ・陸上大会や音楽発表会に向けての練習でも、子どもたちが成就感や達成感を感じられる活動内容にしていく。	全校児童出席日数	50日/69日(72%)															
四 特色ある学校づくり	⑧開かれた学校づくり、地域に信頼される学校づくりを目指す。	地域の人や保護者に対して、学校の取組の周知に努め、願いや思いを把握し、誠意をもって対応するよう努めている。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行されたので、各種行事の参加者を制限することなく実施することができた。その結果、教職員・保護者・地域のいずれもが肯定的にとらえている。ホームページや学校だよりをはじめとする各種たよりや地域の回覧板等で、学校の行事や取組を周知しているためと考えられる。 ◆ 一部の地域住民からは、「行きたくても行く手段がない」「学校に行くのが辛い」という声を聞くことがある。本校は、高台に設置しているため、高齢者にとって参加したくてもできないという思いがあるのではないかと考える。従って、行事や取組の内容によっては、地域の中に出向いて行ったり公開したりすることも必要なのではないかと思う。	教職員アンケート11-①③ 保護者アンケート ⑩⑭⑰⑱ 地域アンケート③④⑤⑧	82%	18%	0%	0%	68%	32%	0%	0%	70%	30%	0%	0%				
	学校運営協議会所見	・地域住民は、7月の相撲大会・12月のマラソン大会でしか子どもたちの様子が見えない。ぜひ、その他の行事などについても、町民会館や集会所で行ってほしい。 ・高齢者は、小学校まで行く手段がない。行きたくても行くことができない方々もいると思う。 ・回覧板での情報発信は、多くの文書の中の一枚となってしまいうため、ゆっくり読んでもらえていくか心配な面がある。	学校の対応	・学習発表会を町民会館か船越集会所で開催することを検討する。 ・ホームページ上にも、学校だより等を掲載していることを知っていただけるように、お知らせ文書を掲載するなどの工夫を行う。																	
五 教職員の向上・指導	⑨指導力の向上を目指す、組織的・計画的な研修を実施する。	お互いの指導力向上に役立つ、組織的・計画的な校内研修を実施する。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇ 校内研修は、計画に沿って行っている。今年度は、「深い学び」の充実に向けて研究を進めており、各教科担当からの情報を共有し、指導改善に生かしている。教材研究などの自己研修を行う時間を適切に確保することが課題である。 ◆ 本校の研究主題である「知識や経験とつながりながら、自分の思いや考えを豊かに表現できる子の育成」に向けて、学期ごとにアンケートを実施し、効果的な実践事例などの情報交換を積極的に行って、実践に生かしていきたい。	教職員アンケート10-①②③④	44%	56%	0%	0%												
	学校運営協議会所見	・校内研修の充実が高い評価につながっていると思う。 ・今後も、切磋琢磨しながら指導力の向上に努めてほしい。 ・校長先生がねらいとしている「つながり」を教職員の中でも深めて、互いに力を付け合ってほしい。	学校の対応	・人事のバランスのよさを生かし、互いが実務を通じて指導していく方法や教職員間の対話を通じて自身が気づき、答えを見付けていく方法などを活用し、「報告・連絡・相談」できやすい体制づくりに努めていく。 ・町ICT支援員の訪問日を週1回に増やし、積極的な活用をし、教職員のICTスキルアップを図る。																	
六 命を守る安全教育	⑩健康・安全教育の推進に努めるとともに、学校の安全体制を確立し子どもの命を守る。	あらゆる場を通じて、事故や災害から自分の命を守る知識や方法を指導して、「命を守る」能力を高める。 ※地震・火事・津波の時の避難の仕方が具体的に分かっている児童・教職員・保護者・地域住民の100%が肯定	A	◇ 防災・減災教育については、100%の肯定率であったが、地域の方々からは、「登下校の仕方についての指導が不十分ではないか」という意見もあった。見通しの悪い場所や空き家の崩れそうな側を通学路として利用していたことに不安を感じたり、児童の通行の仕方が危ないと感じたりしていることが伺える。 ◆ 今後も防災・減災活動や教育は、地域と共に進めていく。登下校指導については、児童への交通ルールやマナーに関する指導を継続して行うこととする。また、自分や他人の命を守るための知識の習得や訓練を地域と合同で実施していく必要がある。	教職員アンケート7-⑥⑦⑧⑨ 児童アンケート⑱ 保護者アンケート⑫ 地域アンケート②⑥⑨	44%	53%	3%	0%	100%	0%	0%	0%	45%	55%	0%	0%	62%	36%	2%	0%
	学校運営協議会所見	火気・施設等の確認を徹底し、定期的な安全点検を全教職員で行い、安全確保に努めている。 ※教職員の100%が肯定	A	◇ 日々の巡視や毎月の安全点検などで、全教職員が安全確保に努めることができている。施設・設備に不備があったり修繕が必要であったりした場合には、その都度対応している。危機管理意識を常に持ち、子どもの命を守ることができる環境整備に努めている。 ◆ 引き続き、安全点検等を通じて児童の安全確保に努める。危険箇所については、管理職を通じて、教育委員会へ報告して対応する。今後も、避難所という視点と土砂災害警戒区域に囲まれているということを踏まえながら安全確保を行う必要がある。	安全点検	・月1回実施 ・警報発令時に適宜実施															
七 特別支援教育の充実	⑪個別の指導計画を適宜作成・活用し、指導・支援を効果的に行う。	必要な児童の個別の指導計画を作成・活用し、共通理解のもと個々の能力を伸ばす指導・支援を行う。 ※教職員の100%が肯定	A	◇ 校内研修会において、特別支援教育校内委員会を2回行った。1回目は、各学級での児童の実態把握をもとに話し合い、個別の指導計画が必要な児童について確認をした。2回目は、作成した個別の指導計画をもとに、1学期の取組や児童の様子について情報交換を行い、共通理解を図ることができた。 ◆ 評価・反省をし、指導の手立てなど、見直し・改善をしながら、個別の指導計画を作成する。毎学期ごとに、特別支援教育校内委員会で話し合い、情報交換をしながら共通理解を図り、よりよい支援をしていく。特別支援教育の視点に立った指導法の工夫や改善に努める。	教職員アンケート12-①②	57%	43%	0%	0%												
	学校運営協議会所見	・校内研修や日々の情報共有による個を生かした指導の成果を感じる。 ・全校児童一人ひとりに対し、全教職員が一日に必ず褒めたり認めたりする声掛けを行う取組を継続してほしい。	学校の対応	・児童理解を深める研修体制をさらに充実させていく。 ・特別支援教育校内委員会の体制や活動のさらなる充実を図る。																	